

容器包装材のリサイクルの実態と課題

中間活動報告

平成 10 年 4 月

(社)日本廃棄物コンサルタント協会
ごみ処理基本計画専門委員会

容器包装材の再商品化に関する調査報告書 目 次

今回調査の概要	1
I. ガラス類の再生利用について	1
1. ガラカびん容器の現状	1
1.1 容器に使われているガラスの種類	2
1.2 ガラスびんの生産量推移	3
1.3 ガラスびんリサイクルの概要	6
1.4 再商品化計画	11
2. ガラスリサイクルの現状	15
2.1 ガラスリサイクルの方法	15
2.2 メーカー（カレット装置等のメーカー）に対する調査	17
3. 関連団体のリサイクル取り組み状況	22
3.1 ヒアリング及びアンケートを実施した関連団体について	22
3.2 再商品化に関する対応について	24
3.3 団体が把握しているガラスの再商品化（資源化）主な施設	26
3.4 再商品化促進に関しての問題点	26
3.5 その他自由意見	27
4. 問題点及び今後の課題	28
4.1 問題点の把握	28
4.2 今後の課題	29
II. かん類の再生利用について	31
1. スチール缶のリサイクル実態	31
1.1 スチール缶のリサイクルの現状	31
1.2 スチール缶のリサイクルが普及拡大する背景	32
1.3 発生源別に見た鉄屑の種類	32
1.4 スチール缶リサイクルに関する最新情報	33
2. アルミ缶のリサイクル実態	38
2.1 アルミ缶のリサイクルの現状	38
2.2 アルミ缶のリサイクルが普及拡大する背景	39
2.3 アルミ缶リサイクルフロー	39
2.4 アルミ缶の再資源化ルート	40
2.5 アルミ缶リサイクルに関連する最新情報	41
3. リサイクル回収・再生工場の実態	46
3.1 スチール缶再生工程の現状	46
3.2 アルミ缶再生工程の現状	52
4. 今後のあき缶リサイクルのあり方	55
4.1 環境に配慮した「TULC(外)缶」について	55
4.2 「カンの減量化」について	56

4.3 将来のあき缶リサイクルのあり方について	57
Ⅲ. 紙類の再利用について	59
1. 紙類の再利用の基礎知識	59
1.1 古紙再生の歴史	59
1.2 紙の種類	59
1.3 古紙の再生	60
1.4 紙の生産量と古紙の回収量	61
1.5 再生紙にならないもの	63
1.6 再生紙の作り方	63
1.7 紙製品と容器包装リサイクル法	64
1.8 紙パックの再生	64
2. その他の紙製容器包装と再商品化への取り組み	68
2.1 その他の紙製容器包装の内容との製紙原料以外の再利用用途	68
2.2 古紙によるパルプモールドの生産	70
2.3 紙コップの回収システム	72
3. 紙パックのリサイクルに関する実態調査	74
3.1 製造業関連団体の調査	75
3.2 回収団体の調査	84
3.3 再生業者の調査	86
4. 紙製容器リサイクルの今後の課題	89
Ⅳ. プラスチック類の再生利用について	91
1. 資源リサイクルの社会的な理念	91
2. 廃プラスチック類のリサイクル	92
2.1 リサイクルの現状	92
2.2 プラスチックの使用量及び再生使用量	93
2.3 プラスチック類の種類と使いみち	95
3. 容器包装廃棄物ごとの検討	96
3.1 材質・形状	96
3.2 再生利用用途区分	102
3.3 新しいプラスチック素材	104
4. 収集・運搬（ペットボトル）	107
4.1 分別排出	107
4.2 収集・運搬	110
5. プラスチック廃棄物処理施設	113
5.1 プラスチック廃棄物の区分	113
5.2 プラスチック廃棄物処理施設	115
(社)プラスチック処理促進協会へのアンケート結果	123